

二〇二二年八月一日(参加者二〇名)

少年は蛇口へ頭晩夏なり  
よう子

水玉をまろばせあそぶ蓮の風  
満天

蓮広葉ま向きそ向きに風いなす  
更紗

蓮の風少女は膝の本を閉づ  
よう子

山の端へ落暉傾く晩夏かな  
明日香

紅ほのと蓮の蕾の宝珠なす  
はく子

船底の藤壺を削ぐ晩夏かな  
豊実

間歩出でし吾に目潰しの晩夏光  
かかし

膝の傷一つ増えたる子の晩夏  
素秀

旅終へて余韻に浸る晩夏かな  
もところ

WEB句会みのる選・二〇二二年八月一日